

2024.12.5 (木)
第22回例会
(通算3784回)

2024-2025年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2024-2025年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025年度
R1会長 ステファニー・M.アーチック
第2500地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西RC)

本日のプログラム 講師例会「様々な困難を抱えた青少年への支援～自立援助ホームの事業」(プログラム委員会)

次週例会 「クリスマス家族会」(親睦活動委員会)

- ロータリーソング：奉仕の理想 ■ソングリーダー：瀧波 亮大君
- 会員数 105名
- ビジター
- ゲスト 一般社団法人 ココロミクラフティ 理事 秋田 照洋様

会長の時間 高橋 直人会長



皆さん、こんにちは。今日の会長挨拶は台北中央ロータリークラブ39周年記念パーティーについてのお話をさせていただきます。

12月1日14時40分の便で千歳空港を出発しました。千歳空港では2件のトラブルがあったのですが、これは年明けの国際奉仕委員会の例会で発表になるとしますので、これは報告しません。

PPダニーさん、PPイーサンさんご夫婦がお迎えに来ていただきました。大歓迎を受けて写真撮影のあと、夜の食事をご馳走になり、その日は終わりました。二日目は観光で九份・十分を巡り、夜にウエルカム・パーティーに参加させていただきました。観光では、私は九份に行ったことはあるのですが十分は初めてだったので、ナイヤガラのような滝を見せていただきまして感激しました。滝に向かう際に大きなつり橋がありました。そのつり橋にはたくさんの観光客がいて、横揺れがすごくて妻も一緒に行ったのですが、歩くときには叫びながら渡ったのです。そこから帰ってのウエルカム・パーティーでは、会長挨拶とは聞かされていなくて急に「会長挨拶を」と言われました。そこはアドリブの効かない私がなんとか挨拶をしました。その中で、皆さんとの調印式などの後、カラオケ大会になりました。私は歌えないので、うちの東堂幹事が

ティックトックでも有名なので出ていただき、歌を披露いたしました。その歌を唄っている間、ウチの妻が西村さんの奥様と邵さんの奥様がバックダンスで踊り、大変盛り上がり盛大のうちに終わりました。三日目は、台北中央ロータリークラブ39周年の周年パーティーに参加させていただきました。参加された方は分かっておられるでしょうが、会長は来賓席ということで皆さまの席とは違って、パストガバナーの方々などの高い席で、おしゃべりすることもできなかったのですが、ウチの妻が社交的なものですから、全員にお酌をして隣の方とも親しく話している姿を見て、自分の妻ながらさすがだと思いながら見ていました。

その中で、花蓮への義援金で表彰を受けたのです。ウチのクラブは台北中央ロータリークラブさんとは別に台北中央ロータリークラブを通じて花蓮県に多額の寄付をしていたのです。その表彰は、私が出る場面ではなかったのですが、「来てください」と言うので、壇に上がって盾をいただきました。隣の方が「寄付をしているのに何ももらえない」となって、降りてからよく見たらウチのクラブへの物ではなく、隣の方の物でした。私は何もしないで皆さんから拍手を受けたのです。隣の方は福岡東ロータリークラブの方ですが、その方は演台の下で写真撮影というハプニングがありました。なにか恥ずかしい思いをしました。式典の中で皆さんが発表するのですが、ウチのクラブはそれがなくて、盛大に行われていました。次年度は何を発表するのか分かりませんが荒井エレクトにお任

せしまして、よろしくお願ひいたします。
無事に終わって帰ってまいりました。気付いたのですが、台北のコンビニで買い物をすることがあって、今までは経済的には日本の方が上だと思っていたのですが、買い物をすると水1本が60ドルでした。日本円に換算すると300円です。向こうはこれが普通ですが、日本がいかに円安かと、われわれ経済人が頑張っ
て盛り上げていかないと台湾にも負けてしまうのではないかと思ひました。
こちらを全部設定していただきました村上国際委員長にお礼を申し上げて、本日のあいさつとします。本日も楽しい例会にしましょう。

幹事報告 東堂 光春幹事

皆さん、こんにちは。本日、出席委員長が欠席のため代理で11月の出席報告をさせていただきます。第一例会：46.2%、第二例会：45.7%、第三例会：42.3%、第四例会：70.5%、
11月の合計で51.2%となっております。
また、台北中央ロータリークラブよりとても素晴らしい茶器をいただきました。ホワイトボードの棚に置いてありますので後ほどご覧ください。この後、事務局に飾らせていただきます。
以上です。

委員会報告

ロータリー嵯峨奨学金委員会 西村 智久委員長

ロータリー嵯峨奨学金委員会です。この場を理事会として報告します。本日、第100回目の奨学生の奨学金を振り込んでまいりました。無事に1年分のそれぞれ24万円を入金いたしました。ありがとうございました。また、皆さまのご寄付をよろしくお願ひいたします。

ごあいさつ

藤井 敬亮会員

藤井です。先日、本を発売させていただきました。この場を借りてその説明をさせていただきます。
先週、お配りした本ですが、コロナ禍が始まった2020年に書き始めました。内容的には1~2年で書き上がっていたのですが、これを「本にしたほうがいい」と勧められたことから、校正作業を繰り返して3~4年が経ちましたが、先月の発売まで漕ぎつかさせていただきました。
内容的には、宗旨であるうちのお寺の成り立ちとか、歴史的経緯。その次に、うちで発見された江戸時代の仏具の詳細について。三つ目が関係はないわけではありませんが、神様の祭神、具体的には巖島神社の神様のことなのですが、それも私のお寺に関わることだったので調べた結果を記させていただきました。

本当に専門的で限定的で読みにくい内容になっています。ですから、お持ちいただいた方も通して読むことは難しいと思いますが、歴史的なこととか釧路の街の発展にご興味のある方は何かの拍子に思ひ出した時に辞典代わりに開いて読んでいただいてもかまいません。いろいろな一般的な釧路市史には載らない内容が記されておりますので、まだたくさん積んでありますのでお持ちでない方はお持ちいただきたいと思ひます。

長い間、ありがとうございます。

■本日のプログラム■

講師例会「様々な困難を抱えた青少年への支援～自立援助ホームの事業」

奉仕プロジェクト委員会 八幡 好洋委員長

奉仕プロジェクト委員会の八幡です。私のほうから本日の講師をお願いさせていただきましたココロミクラフティの秋田さんをご紹介させていただきます。
秋田さんは1985年生まれ、釧路公立大学を卒業後、旭川の民間企業に就職されまして、その後釧路に戻られてNPO法人に就職されております。2017年に現職の一般社団法人ココロミクラフティの立ち上げに参画されまして、虐待など様々な理由で家庭にいられない15歳から20歳前後の女性の支援をされております。
ココロミクラフティは、「地域を、暮らしを、人生を」「心見て、試みることで」「ともに創る」を理念に2017年に創業後、現在は、児童福祉、障害福祉を中心に市内に4拠点、12事業を展開されております。職員は31名いらっしゃると聞いております。ぜひ皆さま、楽しみに聞いていただけたらと思ひます。秋田さん、よろしくお願ひいたします。

講演

一般社団法人ココロミクラフティ理事 秋田 照洋様



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介に与りました一般社団法人ココロミクラフティの秋田と申します。

本日は、このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。いささか緊張しておりますが、ゆっくり聞いていただければと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

いま、ご紹介いただきましたので自己紹介を割愛させていただきます。
ココロミクラフティという法人名はカタカナばかりで、どこで区切っているのか分からない法人名ですが、

とにかく「心を見る」ということを大切にしています。人生とか暮らしを「試みる」、試すということ大切にしています。成功も失敗も、いろいろなことに挑戦してみなければ分からないこともたくさんあると思いますので、福祉の事業体ではありますが利用者さんとともに、職員とともにいろいろなことに挑戦しながら少しずつ大きくして行ければと考えています。

本日の内容は、私が施設長をさせていただいている「自立援助ホーム」という事業、また、それにまつわる被虐待児の現状などをとおして、このような子どもたちに関わることによって僕が大切にしていることをお話させていただければと思っております。

自立援助ホームという施設を聞いたことのある方はいらっしゃるでしょうか。聞き慣れない名称かと思えます。自立支援とか自立準備とか、自立援助ホームとパッと出てくる方は少ないのです。ここの説明からさせていただきます。

自立援助ホームという施設は、何らかの理由で家庭にいらなくなり、自立せざるを得なくなった原則として15歳以上の子どもたちの暮らしの場となる施設となっています。児童福祉法に位置付けられている事業になります。何らかの理由とは、ほとんどが虐待です。お父さん、お母さんからの虐待、それだけに限らず、いろいろな理由で家庭にいらなくなった子どもたちが生活する施設です。

児童養護施設はホントに幼少期から過ごすことができますが、自立援助ホームは15歳以上と決められております。この、自立せざるを得なくなったという意味です。過去には中卒で働くことが当たり前の時代でしたが、今はそれがなくなってきました。15歳という年齢がどのようにみられるかは時代によって変わってきたと思うのですが、本人に十分な意欲と能力が備わっているか否かに関わらず、家族を含め、他の援助を受けることができない状況で、自立を強いられた状況を指しています。ほとんどの場合、15歳の義務教育終了時点で施設や家庭から出て働かなければならない子どもたちは、意欲や能力の面で、十分に一人で生活できる状況にあるとは言い難いのが現状です。私たちの所に来る子どもたちは、自分から望んで家を飛び出したわけではありません。いろいろな家庭の事情、それが許されなくて家を出なければいけない、家を出されてしまう状況で来る子どもたちばかりですので、意欲の面、能力の面で非常に厳しいものがある子どもたちだと思います。

それにも関わらず自立させられた場合、職場や生活場面でも困難を抱え、社会適応ができません。そのような子どもたちに対し、社会的援助が必要だと感じた関係者のボランティア活動によって創設されたのが現在の自立援助ホームのはじまりとなっております。元々は、戦争孤児を受け入れたり、養護施設を飛び出して

しまうような非行少年を家に一緒に住まわせて支援をしたりするようなホームがスタートだったと聞いています。

今は、管轄の児童相談所からの措置委託をいただきます。原則、利用契約を結んで利用する少し特殊な施設です。このような施設が全国に350カ所あります。釧路管内には3カ所あり、北海道内には30カ所の自立援助ホームがあります。

児童相談所から相談をいただくことがほとんどですが、中には、家族の方、本人、あとは高校の先生が勉強に困ってというよりも、勉強をする意欲はあるけれど生活環境が整わなくて生活環境を整えるために相談をいただくこともあります。もちろん、司法関係、鑑別所にいたのだけれど、少年院にいたのだけれど、もう家に戻ることができないからこのような福祉を利用するという方もいると思います。

自立援助ホームの大きな特徴です。どんなに離れていても、本人から関係を切らない限り支援を継続して行きます。一度、自立したからといって、その後、何事もなく順調に生活して行くケースのほうが圧倒的に少ないと感じています。

また、児童自立生活援助事業が今年4月に拡大されて、20歳以上でも自立能力によって支援の継続ができるようになりました。15歳以上からの制度であります。20歳になったからその子が本当に自立できるのかをしっかりと見極めなければいけないと感じています。

元々、戦争孤児とかを受け入れるような施設でしたので、自立援助ホームに入って働くのがメインでしたが、そううまくは行かずに高校に行きながら自立援助ホームを利用しているケースも増えてきました。また、背景に何らかの障害があるケースがほとんどとなっていると感じています。うちの施設に来て、働き先を見つけて、一人暮らしのマンションを見つけて、すぐに出て行くという3カ月から半年くらいのスパーンで利用する子がほとんどだったのが、今は1年、2年、3年と支援を継続することが必要になってきました。また、高校生が入って来ることによって、児童養護施設とどのように住み分けて行くのが難しいと思います。

虐待が起きてから対応するよりも、虐待が起こりそうな時点でうちのような施設が少し支援できるようになると、もっと子どもたちも生き生きとこの地域で過ごすことができるのではないかと感じています。

とにかく、いろいろな困難を抱えた子どもたちがつながつて来ます。生まれもった障害があれば、育つ中で愛着による課題、愛される・愛されない家庭環境から影響された生活力、例えば「ゴミ屋敷」で育った子どもは、片付ける必要性とか、片付けることから得られる満足感を知らない子が来たりします。また、当たり前に守られる、受け入れられる経験の無さ、社会的

な経験の少なさ、結構、不登校の子どもも多いので学校に通っていないばかりに人間関係をうまく作れなかったなどの経験が他人への不信感、生活保障のない将来、などなどホントに困難を子どもたちがつなげてくる印象です。

15歳からということもあり、良し悪しを問わず、たくさんの方を学習してくる子どもたちの受け入れを今、行っております。

今の被虐待児の現状に触れさせていただきます。虐待に関する相談が各児童相談所に全国では、207,700件くらい入っていると計算されています。釧路でも年間約500件の相談が児童相談所に寄せられている現状です。虐待にはいろいろ種類がありますが、殴る・蹴る身体的虐待よりも心理的な虐待、暴言とか人格否定とかの相談が増えてきています。

年齢構成も、小さい乳児・幼児から小学校・中学校、もちろん高校生にまで至る本当に幅広い年代の子どもたちが虐待のような状況にあって、相談をしてつなげている状況です。主な虐待は、両親、実父、養父母とかが多いのです。

その中で、施設入所するのは僅かです。ほとんどが面接指導で終わるようなことも多いです。この面接指導からつなげることができなくて、児童相談所からの相談があったのだけれども、最悪はニュースで言われるような亡くなった事件につながってしまっているのが現状だと思います。このような虐待のケースが増えてきています。

この背景には貧困化、孤立、という要因があると言われています。経済的余裕のなさ、核家族など家族の構成が変わってサポートしてくれる人が少ない、身近にサポートしてくれる人がいないという現状があって、育て難さを感じるところで虐待が起きてしまう。また親子ともに障害が絡んでしまうケースもあります。子どもに発達障害とか知的障害があって、どのように自分が子どもの時と照らし合わせることができない子育てのし難さがあると思いますが、それだけではなくて子どもは普通で、お父さん・お母さんに障害があって、お母さんに心の余裕がないとか、お父さんの子育てへの理解とかが絡み合っただけで虐待が起きてしまうケースがあると思います。

警察介入のケースも増えてきました。特に大きなニュースになった2019年に札幌市で2歳児が衰弱死をしてしまった女の子の池田詩梨(ことり)ちゃんがお母さんの彼氏に虐待を受けて亡くなっています。児童相談所も関わっていて、警察も介入していたのだけれども痛ましい事件になってしまって、道も警察も虐待ケースに関しては介入をするようになってきています。これまで見過ごされてきたケースが顕在化していると思います。おそらく、釧路にも、全国的にもこのような辛い状況にある子どもたちはたくさんいるのだ

ろうと感じています。僕たちが関われるのは、ごく一部、表面的なことなのではないかとも思っています。ここからは、私の施設についてお話をさせていただきます。

「KCホームズ」という施設の施設長をしておりますけれども、定員が9名で女性のみでの支援をしています。現在は5名の職員で、7名プラスαとしていますが、入居して密に関わるのは7名ですが、ここから巣立って行った十数名の女性たちが、釧路で一人暮らしをしていたり、全道的に、全国的にいろいろな所に行き、一人で自立して頑張っているの、その支援をしています。新橋大通8丁目1の6、元は山田整形外科さんだった所の建物をお借りして施設を運営しています。

自律援助ホーム・KCホームズは生活支援、就労支援、通院支援、相談支援を行っています。食事の提供は月曜日から土曜日の夕食のみ、その他は決まった食費でやりくりすることを彼女たちに覚えてもらっています。共同生活ではありますが個室があって、日中はアルバイトをしたり、知的障害があって就労支援の事業所に行っていたり、支援学校に通うなど様々です。まずは、大変な状況にあった子どもたちですので、今は、安全で安心して眠れる生活環境の提供から将来を考える環境づくりを行っています。

私がいま、子どもたちと関わるうえで大切にしていることを4点、お話ししたいと思います。

ひとつは共同生活ですので、そのうえで大前提のルールとして、他人に迷惑をかけないということをお伝えしています。いくつかの細かいルールを設定していますが、入居時に他人に迷惑をかけないということをお必ず説明しています。共有スペースを片付けるとか。ホントに生活力がないというか、自分たった一人で暮らしている子もいれば、8人兄弟、9人兄弟、10人兄弟で2LDKみたいな家で生活してきた子もいますので、周囲への気配りなどしていると自分が取り残されてしまうような環境にいる子どももいます。周囲への気配りをとおして自分の行動が他人にどのような影響を与えるかを中心に振り返りの動機付けをしています。

一方で他人に迷惑を掛けないと言うと、誰かに頼ってはいけないのだと思ってしまう子どもたちもいます。自分が何かのお願いをすることでスタッフが時間を割くことが迷惑だと捉えていることがあります。そういう時は、自由と勝手気ままに振舞うことは違うということを何度も振り返りをして、どのように理解しているかを確認しながら行動や考え方をフィードバックすることを繰り返しています。

大切にしていることの二つ目です。自立って何だろうと僕たちは常に考えながら子どもたちに関わっています。自立するという前に、安全・安心な生活環境の

提供を話しましたが、社会的健康的に不適切な生き延びるための方法を使わなくてよい状況かどうか。例えば今では、パパ活をしないとご飯を食べられないとか、ニュースになるようなト一横のような環境がないと自分は他人とは関われないとか、お金を通さないと大人と関われないとか、の子どもたちが増えているので、誰もが納得する方法で自分を保つことができるとか、自分自身をケアできる、自分で自分が大丈夫と思えるようなことを通して支援をしています。

毎日の生活がサバイバルのような状況では、自立を考えるのは難しいです。自分の将来は何だろう、自分の夢や希望って何だろう、を考えるのが難しいかなと思っています。そういうことが考えられるように安全で安心の土台を作るところから始めています。

自立には三種類あると思っています。経済的自立、お金のうえでの自立です。自分の意志で自由に選択するためのお金を得るということです。二つ目は日常生活の自立。洗濯とか掃除とか自分の身の回りのことがしっかりできるかです。行政サービスをフル活用することも、そういう子どもたちは知らないのです。大人がそういうサービスを活用することを見て来ていないので、知らないのの一つ一つ教えています。最後は社会的自立です。他人との距離感を図りながら関り、適切に依存することが大事だと思います。今はなんでもSNSで情報を得るような時代ですので、その情報はホントに発信した人に責任があるのかを問いながら情報を取捨選択する力を身に付けてほしいと思っています。

大切にしている三つ目は、スタッフの関わり方です。失敗は学習のチャンスだと思っています。失敗することもその子の権利だと思います。その権利や機会を奪われてきた可能性も高いです。失敗することが本当に命の危機に直接つながっていたので失敗できないという子もいるのです。失敗してしまった自分は、ホントに存在価値がないくらい落ち込んでしまうような、今どきの若手社員の方も多いと思います。失敗することを恐れてしまうので、なかなか挑戦しないという子も多いのではないかなと思っています。

だけど、それはまずいな、どんなにそれをやってみようと、きっと誰かに迷惑を掛けたり、自分が傷つくだろうと分かっているけど、先回りをしないということをグッとこらえて関わっています。「どうして失敗したのか」、「どうすれば良かったのか」を終わった後に振り返って、つなげています。

最後は、「なぜ」を積み上げています。ホーム内で起きている全ての言動に「なぜ」という問いを繰り返すことを意識しています。

いろいろなことに関わってもらっていた中で、「なんで、そういうことをしたの」と問いかけた時に言葉が出てこない若手の方がいると思います。思ったより

言葉を持っていないのだな、思ったよりも自分の中でどうしてそういうことになってしまったのだろうとか、自分の気持ちが分からなかった、という子が多いのだろうと思っています。

僕たちも、子どもたちに「なぜ」を問いかけるのですが、いろいろな言葉の引き出しを僕たちが提供しながら、「それは、どうしてだったのだろう」と言語化することによって自己理解につなげて行きたいと感じています。

自分が思っているよりも、すごく傷ついたので、すごくイライラするからと簡単にリストカットしてしまう女の子が多いのです。多分、それはそういう術しか知らないだけであって、違うことを言葉にして渡してあげると、「そういう時は、少し贅沢をするんだよね」とかで気分を変えることもできるので、行動の術とか言葉を持っていないのだなと思っています。それをしっかり伝えられるように、僕たちは一日一日、「なぜ」を積み上げながら子どもたちと関わっています。

このような子がいました。18歳になる2日前にウチに入って来て、親から養育拒否があって、ネグレクトがあって、毎日毎日が「しつけ」という名の下に夜中まで説教をされて、西庶路から江南高校に通っていたのですが必要な交通費も出してもらえず、毎日歩いて登下校するような状況で、帰宅時間も早く帰らなければならないアルバイトもできない状況で、高校からご相談を受けて児童相談所を通して一時保護をしました。

支援は学校復帰、将来に向けての進路変更などなどを行ったのですけれど、もともと頭のいい子でしたので看護学校に入ることができました。今は中退して一般就職をして、ひとり暮らしの練習中です。おそらく生まれつきの発達障害があったのだろうと思います。お母さんにも衝動性が強かったり、片付けられなかったりなどから発達障害があったのだろうと感じています。あとは、客観的に自己を振り返ることが困難なことも発達障害の特性だと思います。なんでも悪いのは私じゃない、周りが悪いのだ、あの人が悪い、あの大人が悪いのだ、とよく言いました。私の行動に問題はないと言っていました。

なので、頭ごなしに叱ることはせずに、表情を見ながら「周りはこのように考えているのだよ」とか「相手はこのように考えていたのではないかな。言われたあなたは、こう思ったのではないかな」を繰り返しながら支援を心掛けてきました。

最後に、今はSNSをはじめ、利己主義がいたしかないという考えが増えてきていると思います。一方で、社会の担い手として子どもたちが健やかに成長できるようにしていくことが大人としての義務と思っています。最終的にはこのような子どもたちにも納税をしてもらって、一人の社会人として自立をしてもらうこと

が僕たちのゴールではないかとも思っています。様々な困難を抱える子どもたちが可能性を自らつぶさずに希望を持って成長して行けるように、私たちが力を発揮できるようにして行きたいと思います。

本日はご清聴、ありがとうございました。

謝辞 高橋 直人会長

ココロミクラフティ理事・秋田照洋様、本日は貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。

本日のテーマ、「様々な困難を抱えた青少年への支援、自立援助ホームの事業を通して」を詳しくご説明いただきました。東堂幹事が肝いりのご講話でしたので、興味深く聞かせていただきました。

青少年への支援だけではなくて、自立までを考えてのお話に感銘いたしました。私たちも何かを少しでも協力できることがありましたら考えて行きたいと思っています。

これからも健康に留意されて若者たちの自立を導いてくださることをお願いいたしまして、本日の謝辞と致します。本日はありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 高橋 直人君 台北中央ロータリークラブ 39 周年記念パーティーに出席してきました。
- 舟木 博君 皆様、無事台湾から帰ってきました。金門島戦跡を実際見ることが出来ました。
- 吉田 英一君 台北中央ロータリークラブ 39 周年記念式典に参加して参りました。飛行機が億 r でしたが無事帰国しました。
- 東堂 光春君 台北中央ロータリークラブ 39 周年記念式典より無事戻って参りました。来年も頑張ります。
- 荒井 剛君 台北から戻ってきました。来年も是非ゆきましよう。

今年度累計 206,000 円